

自由製作

必要な工具： ・けがき針・えんぴつ・ドリル 2・げんのう
・両刃のこぎり・金切りばさみ・カッターなど

注) 製作前に、本体製作後に残った釘の本数を確認しておくこと。

(1)材料の確認

まず練習材を含めてどれだけの余材があるか確認する。

(2)自由製作するものを構想する

余っている材料から製作可能なものを構想する。その際、本体と組み合わせて使うものをつくるか、本体とは関係のないものをつくるのかを考慮する。本体と組み合わせるものをつくる場合は、出来上がった本体の棚のサイズを確認した上で構想する。

(3)設計する

構想したものを具体的なサイズを決めて設計する。本体の棚の中に収納するものを自由製作するときは、棚の内寸より2~3mm小さいものをつくるようにする。また、余材の材質にあった加工(折り曲げ)や、接合方法を用いることを考慮して設計する。

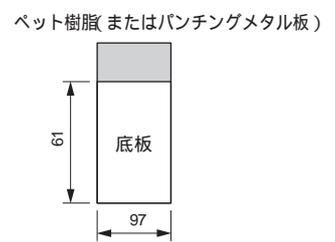
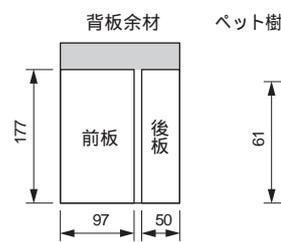
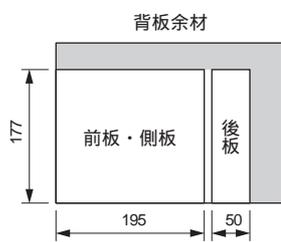
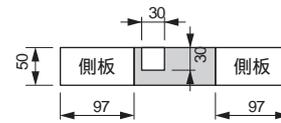
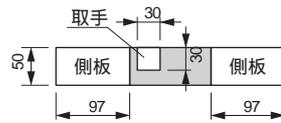
(4)材料取り

えんぴつやけがき針などを使ってけがき、切断する。部材の仕上げはやすり、紙やすり、カッターなど部材にあった方法で行う。

(例) 収納BOX

練習材 (10x 50x 300)

練習材 (10x 50x 300)

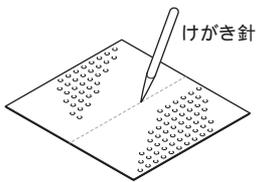


(5)部材の加工

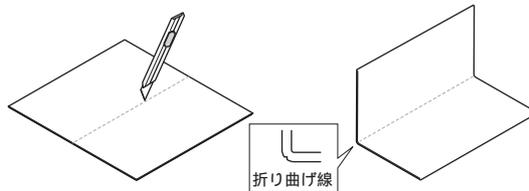
折り曲げ、面取り、接合のための釘下穴あけなどを行って部材を仕上げる。

(例) 収納BOX

パンチングメタル板の場合
けがき針で強くけがき。
木材の角などに沿わせて
直角に曲げる。

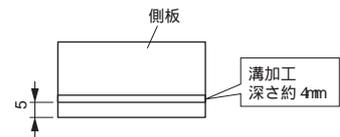


ペット樹脂板 / MDFボードの場合
カッターで折り曲げ線を入れ、折り曲げ線が外側になるように直角に曲げる。



収納BOX

側板の溝加工
両刃のこぎりなどで加工する。
底板にはペット樹脂板かパンチングメタル板を使うこと。MDFボードでは厚さが合わない。

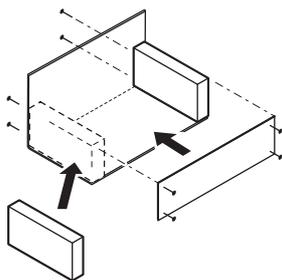


(6)組み立て

仕上がった部材を組み立てて完成させる。塗装をする場合は、性質の違う材質が組み合わさることから、組み立て前に行っておくとよい。

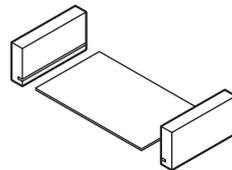
(例) 収納BOX

側板を前板(底板)と後板ではさみこみ、前後から釘で固定する。

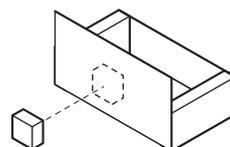


収納BOX

側板の溝に底板をはめる。



取手を取り付ける。
取手の形状は自由にデザインする。



前板と後板ではさみこみ、前後から釘で固定する。

